実践事例　中学校１年

道徳の時間で活用する
～思いやり、感謝～

長門市立仙崎中学校　杉山　保子

1　本場面におけるポイント

● 「道徳の時間」の終末で、関連ページへの書き込みをして終わる。

資料「手をつなごう」を通して感じた日頃の感謝の気持ちを書かせたい。

● 学習したことの明確化を図る。

振り返りとしての感想を記入する代わりに「私たちの道徳」を活用することで、その時間に学習した道徳的価値をはっきりさせる。

2　授業の実際

１　主題名（題材名）　感謝　（「手をつなごう」）

２　ねらい

助け合い、協力し合い、支え合う人間関係を築き発展させるために、感謝の気持ちを言葉や行動で示すことが大切であることに共感させ、理解させる。

３　展開

（１）導入　資料「手をつなごう」（出典　日本文教出版）を読み聞かせ、本時の授業の流れを説明する。

教師：「今日のテーマ（主題）はまだ、空欄にしておきます。あとで何だと思うか皆さんに聞きますね。」
～教師による資料範読～

□　指導上の留意点・支援

通常、主題を先に提示することが多いが、今回は資料を読んで、発問に答えた後で確認することにした。発問の答えから導くことができればよいと考える。

（２）展開　主発問「いやいや弟の面倒を見ていた私に『さあ、手をつなごう。』と言わせたのは何か。」について話し合う。

教師：「『いやいや弟の面倒を見ていた私に”さあ、手をつなごう。”と言わせたのは何か。』を考えてワークシートに書きなさい。」
「個人で考え（3分）、グループで考え（7分）、その後代表が発表します。」
～7分後～
教師：「班内で進行係と記録係と発表者を決めてから話合いを始めます。」
～話合い終了後～
１班：「いつもと違う父母の姿。父母が一生懸命働く姿。父母が頑張っている姿。」
２班：「お父さん、お母さんの行動。お父さん、お母さん、作業中の汗だくの姿。」
３班：「いつも仕事を頑張っているし、真っ赤になった父と母の腕。昨日も疲れていたはずなのに仕事を一生懸命やっているお父さんとお母さんの頑張り。父と母の一生懸命働く姿。」

４班：「私たちを育てるために懸命に働いてくれる両親の姿。」
５班：「父と母の仕事の大変さ。頑張って仕事をしている父と母の姿。自分ができることは弟の面倒を見ることくらいなのに、いやいややっている自分。」

□　指導上の留意点・支援

教師の発問に対し、生徒はまず自分で考え、その後、グループ（班）で話し合う。考える。意見が出たら①集約するか、全て羅列するか、班で話し合って決め、②話合いの結果を用紙に書いて黒板に貼り、③代表が発表する。発問を「なぜ～なのか。」と理由を問うものではなく、「○○に○○させたものは何か。」という問い方にしている。それにも関わらず、○○だからという答え方をしてしまいがちなので、気を付けさせる。発表の後、教師により意見を集約する。

（３）終末　『私たちの道徳』Ｐ85の「伝えたい『ありがとう』について考えてみよう。」に記入する。

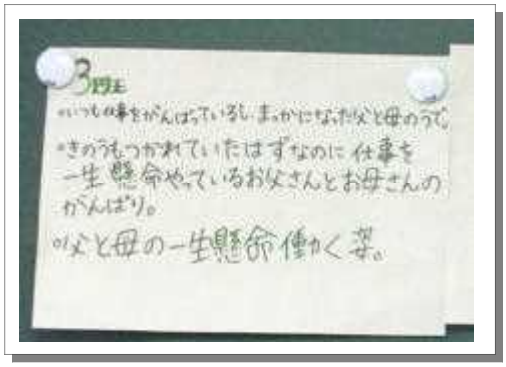
教師：「最初に主題について後で聞くと言いましたが、わかりましたか。」
Ａ　：「『感謝』です。」
教師：「そうですね。では、『私たちの道徳』のP85をご覧なさい。伝えたい『ありがとう』について考えてみましょう。」
Ｂ　：「お母さんが仕事で忙しい時におばあちゃんがごはんをつくってくれること。」
Ｃ　：「父や母に。いつも私たちを育てるために仕事をしてくれていること。」
Ｄ　：「おじいちゃん。おばあちゃん。いつも『いってらっしゃい』を言ってくれてありがとう。」
Ｅ　：「おばあちゃん。誕生日プレゼントをくれること。」

□　指導上の留意点・支援

「伝えたい『ありがとう』について考えてみましょう。」は、日頃の気持ちを素直に表現させる。時間的に厳しく、発表には至らないこともあるが、書く時間は授業時間内におさめることが大切である。

3　実践を振り返って

本時の『私たちの道徳』の活用の仕方は、時間的にも紙面としても一部分の活用に留まったが、試みとしては取り組みやすいものだった。通常の「最後に振り返りとしての感想を書く」ことの代わりに、『私たちの道徳』を用いて、主題に沿ったページに答えて書くという進め方である。



今回、道徳教育指導力アップセミナーで研修した「発問一つでする授業」を行ってみた。一つに絞る問いを考えるのは「この問いでよいのか」という疑問が残り大変だが、挑戦する価値はあると思う。